

「子どものように」

マルコ 10:13～16

2016.11.13 HKJCF

1

概観

なぜ弟子たちは子どもたちが来るのを阻止しようとしたのか？イエス様はなぜ憤ったのか？子どもから学べるものは何か？

アウトライン

1. 子どもの祝福: イエス様のみもとへ V13
2. 子どもの存在: 神の国の対象になる V14
3. 子どもの姿勢: 素直に受け入れる V15
4. 子どもの奉仕: 教会の成長の柱になる 2

2

1. 子どもの祝福: イエス様のみもとへ V13

- 1) 長寿と幸福の約束: 主を恐れて、主の命令を守るように(申命記 6:2-3)。
- 2) 主を愛するように: 本当の神を礼拝するように(申命記 6:4-5)。
- 3) 主のことばを教えるように: 心に刻み、どんな時も覚えられるように(申命記 6:6-9)。
- 4) 信仰の対象: 場所(父の家)と人(イエス様)(ヨハネ 14:1-3)。抽象的ではない。
- 5) 信仰の継承: イエス様の道、真理と命を継承していく(ヨハネ 14:6)。

3

2. 子どもの存在: 神の国の対象になる V14

- 1) イエス様が憤った: イエス様の感情はマルコにし記載されていない(マタイ 19:13-15; ルカ 18:15-17)。弟子たちは御国の性質を理解していない。
- 2) イエス様の命令: 「来させなさい」、「止めてはいけない」。身分の低い、生産性のない子どもも、全員が御国の対象である。
- 3) 大人の模範となる: 子どもの無力感、信頼、親に対する依存が御国に入る重要な要素。子どもから学ぶように弟子たちを叱った。

4

3. 子どもの姿勢: 素直に受け入れる V15

- 1) 疑わない心: 神様に対する信頼が高い。
- 2) 立場やプライドにこだわらない: 社会のしがらみ、風習や常識に束縛されていない。恥も他人との比較も気にしない。
- 3) 謙りと信仰: 受け入れることからスタート。入るのは将来のこと; 「すでに…まだ」の概念が大切。素直に受け入れないと入れない。
- 4) 誇らず、高ぶらず: 自分の限界を知る。野心や欲求を静め、十分な扱い(授乳)を受けて、主の御前に静まる(詩篇131篇)。

5

4. 子どもの奉仕: 教会の成長の柱になる

- ① 日本の現状: 教会の約30%はCSがない
高齢化、少子化の影響; 伝道力の停滞。
CSの平均出席人数=8.8人(4教団の平均)。
- ② 福音に触れる年齢と信仰決心の年齢
初めて福音の聞く年齢: 7.6才。
イエス様を信じる年齢: 16.7才。
- ③ 信仰を持ったきっかけ: 児童期(7-12才)
1) クリスチャンの親の影響; 2) CSや子ども向けのイベント; 3) クリスチャンのキャンプ。

6